



本校の子どもたちに育まれている資質・能力は？ ～全国学力・学習状況調査における児童質問紙調査から～

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

7月28日（木）に文部科学省から、4月19日（火）に実施された今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本調査は、「教科に関する調査」、「児童生徒質問紙調査」、「学校質問紙調査」で構成されていますが、毎年、「教科に関する調査」の結果が注目され、例えば、「北海道は全ての教科で全国平均を下回っている」、「小学校算数は全国の下から2番目」などの記事が新聞等で報道され、「学力危機」などという言葉が一時期、よく聞かれました。しかし、学習指導要領で重視されている「資質・能力」を踏まえると、「児童生徒質問紙調査」に注目すべきと考えます。なぜなら、児童生徒質問紙調査の質問事項は、現在、そして、未来社会を生き抜く上で確実に身に付けたい「資質・能力」という視点で構成されているからです。本校の子どもたちに、どんな資質・能力が育まれているのでしょうか。児童質問紙調査の結果から見てみたいと思います。

	質 問 事 項	全国差
1	自分には、よいところがあると思いますか。	+ 4.1
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	+ 1.8
3	将来の夢や目標をもっていますか。	+ 9.1
4	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	- 3.9
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	-11.4
6	人が困っているときは、進んで助けますか。	± 0.0
7	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	+ 3.2
8	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	-18.1
9	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	+ 4.9
10	学校に行くのは楽しいと思いますか。	+ 3.5
11	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	- 6.9
12	友達と協力するのは楽しいと思いますか。	+ 0.4

※児童質問紙調査は「69」の質問事項で構成されています。「網掛け」は課題と考えられる項目です。

自己肯定感や自己有用感、規範意識が確実に育まれていることが分かります。これらの項目の数値が高いということは、子どもたちを育む環境づくり（学校、家庭、地域）の方向性が正しいということだと考えます。一方で、「挑戦する力」や「やり遂げる力」、「多様性」、「協働性」などの資質・能力が、まだまだ育まれていないことが分かります。特に、「4」、「5」、「11」の項目は、未来社会の創り手となるためには、必須の資質・能力です。子どもたちに安易な課題を示すのではなく、意図的に負荷を掛ける、結果だけでなく、取り組んでいる過程を評価するなど、学校や家庭等における改善の方向性が見えてきています。改めて、「未来社会の創り手となるために必要な資質・能力」という視点を学校と家庭が共有し、連携・協働して各種取組を進めていきたいと考えます。